



◆5月上旬移植のコシヒカリでは、7月下旬頃に出穂します。中干しを終了し、間断かんがいを行いましょう。「基肥+追肥」体系の水田では、追肥の準備をしましょう。

◆出穂期にはカメムシ類の防除を行いましょう！

1. 今年の気象と水稻の生育状況

(1) 気象（平均気温・日照時間・降水量）

◇平均気温

- ・5月は平年並みかやや高く、6、7月は平年並みかやや低く推移しました。

◇日照時間

- ・5月第2～4、6半旬(5/6～5/20、5/26～5/30)は平年よりも長く、それ以外の期間は、概ね平年並みかやや短く推移しました。

◇降水量

- ・5月は概ね平年より雨が少なく、6月は平年よりも多く推移しました。7月は平年並みです。

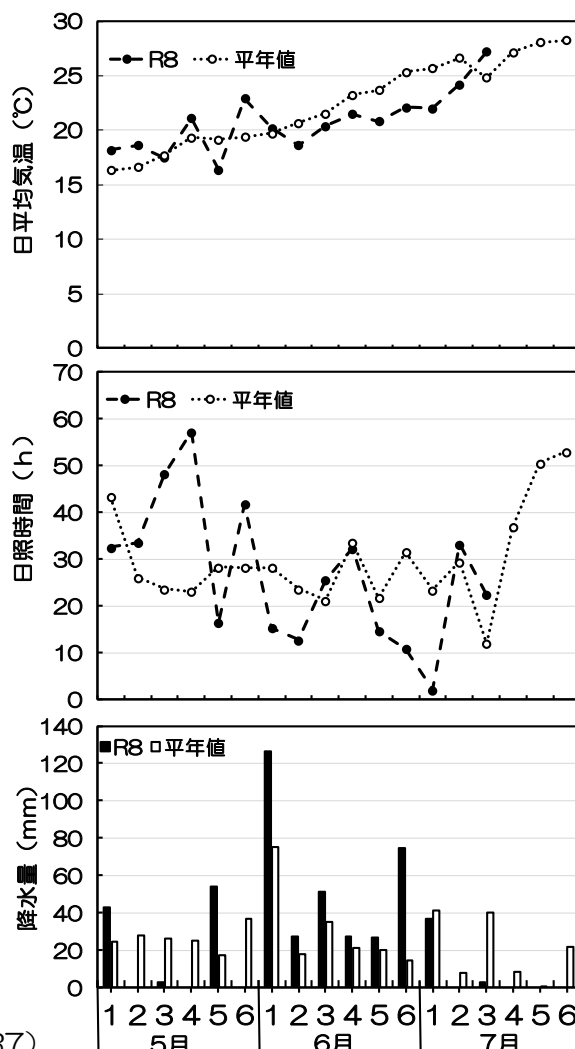


図1 平均気温・日照時間・降水量

(令和8年つくば市館野アメダスデータより)(平年値はR3～R7)

農作業中の熱中症を予防しましょう！

農作業中の熱中症事故の多くは1人作業で発生しています。

命を守るためにも声をかけあいましょう！

○予防ポイント

- ・暑さを避ける



- ・単独作業は避ける

- ・こまめな休憩と水分補給



7～9月

夏の熱中症等対策声かけ期間！

農林水産省「熱中症対策」→



- ・熱中症対策アイテムの活用

(2) 水稻（コシヒカリ）の生育状況（田植え後 70 日頃）

コシヒカリ ～7月9日調査結果～

- ・コシヒカリの生育は、平年値（過去5ヶ年平均）と比べ、草丈は低く、茎数は少なく、葉色は概ね平年並みの傾向です。

調査地点	調査年	田植日	栽植密度 株/坪 (畝間×株間)	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉色 (葉色板)	葉色 (SPAD)
つくば市 上菅間	R8	5月3日	49 (30×22.5)	76	436	2.9	30.6
	平年	5月2日		89	466	3.6	33.2
つくば市 今鹿島	R8	5月2日	49 (30×22.3)	81	472	2.8	30.8
	平年	5月2日		86	475	3.5	32.4
つくばみらい市 中島	R8	5月2日	61 (30×17.9)	83	688	3.3	40.3
	平年	5月1日		87	505	3	31.5

※平年値は、過去5年間の数値より算出。

＜今年の出穂予測＞ 7月26～28日頃 ※調査時の幼穂長は、6.7～24mm
 ＜平年の出穂期＞ 7月22～23日頃

2. 今後の管理

ポイント1 幼穂の長さを測定し（図2）、出穂期までの日数を予測しましょう（表1）

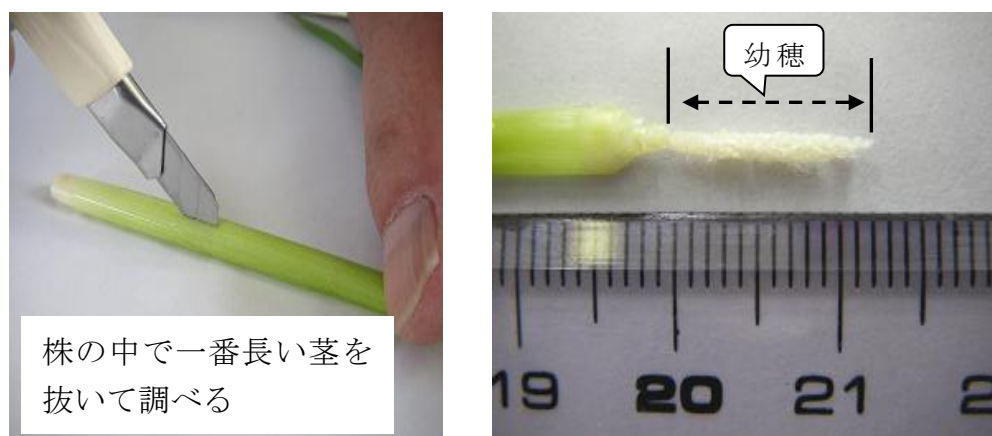


図2 幼穂長の測定方法

表 1 幼穂長を用いたコシヒカリの出穂期予測法

出穂期の予測	今後の気温 幼穂長		平年並み					
	0.5	mm	28	27	26～27	26	25～26	25
	1	mm	26	25	24～25	24	23～24	23
	2	mm	24	23	22～23	22	21～22	21
	4	mm	22	21	20～21	20	19～20	19
	6	mm	20～21	20	19	19	18～19	17～18
	10	mm	18～19	18～19	17～18	17～18	17	16～17
	20	mm		16	15～16	15～16	15	14～15
	40	mm		13～14	13～14	13～14	13	12～13
	60	mm			12～13	12	12	11～12
	100	mm			10～11	10～11	10～11	10
	幼穂長 確認日		7月1日	7月6日	7月11日	7月16日	7月21日	7月26日
								7月31日

※表中の数値は出穂期までの予測日数を表す。

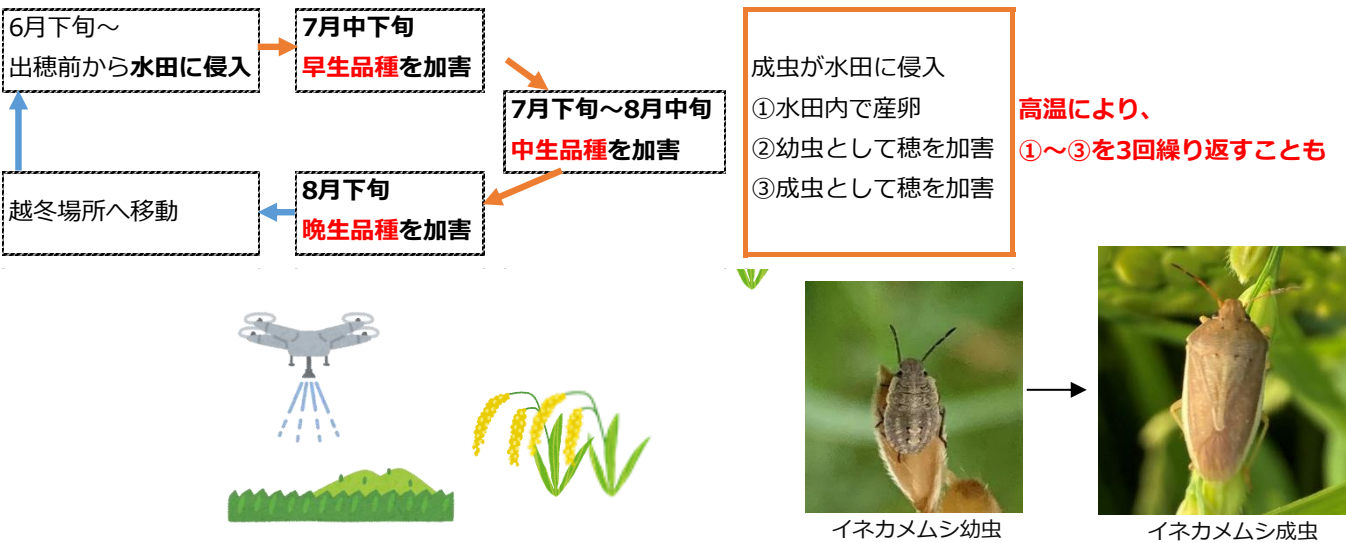
ポイント2 イネカメムシ対策

農薬を使用する際はラベルを必ず確認しましょう！

【発生・被害】

斑点米を発生させる他、出穂期に籾を加害することにより、不稔米を発生させます。

イネカメムシの生態



【対策】

他の斑点米カメムシ類と異なり、穂揃い期以降ではなく出穂期に防除することが重要。

今年も昨年に引き続き、出穂前の水田でも発生が確認されているため、遅れないように防除しましょう。

イネカメムシの薬剤防除

カメムシ防除を乳熟期・出穂期の2回実施しましょう！

1 回目 成虫の飛来期

(出穂期～穂ぞろい期)

…この時期に集中的に加害されると

不稔（青立ち）になり、減収につながります。

2 回目 幼虫の発生初期

(乳熟期：出穂後10～15日頃)

…この時期に集中的に加害されると

斑点米の発生につながります。

ポイント3 間断かんがいで乳白米の発生軽減

①出穂期まで：3～4日程度湛水管理（入水後、自然落水）し、落水状態で1～2日程度保つというサイクルを繰り返します。

②出穂期以降：湛水の継続日数を2～3日とし、自然落水と入水を繰り返し、落水後は田面が乾く前に入水しましょう（図3）。常時湛水や、田面が完全に乾くほどの水分不足にならないように気をつけましょう。

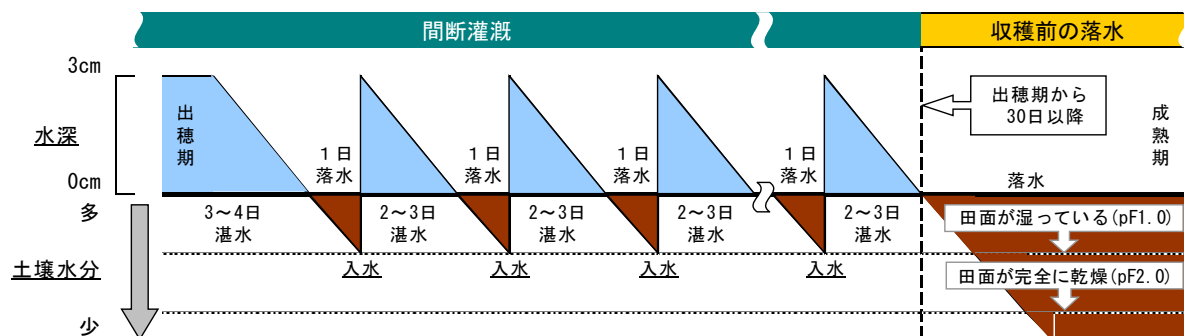


図3 出穂期後の間断かんがい

③成熟期前：早期落水は品質低下（乳白粒や胴割れ粒など）につながりますので、「間断かんがい」はできるだけ出穂後30日まで続けてください（最終入水は出穂期から27日以降になるようにしましょう）。

ポイント4 生育診断による追肥

生育状況に応じた追肥は、収量の向上や、整粒歩合の向上につながります。

表2 主な品種の生育指標値と追肥量

品種名	確認する時期	生育指標値	左記のように生育した場合の追肥量
あきたこまち	①移植後50日 ②移植後60日	①茎数500～650本/㎡ ②茎数500～600本/㎡ 葉色3.5～4.0程度	出穂前18日頃に 窒素2～3kg/10a施用
ふくまる	移植後55～60日	草丈65～70cm 茎数500～550本/㎡ 葉色3.6～4.0程度	出穂前18日頃（幼穂長5～10mm） に窒素3kg/10a施用
コシヒカリ	出穂前20日頃	草丈80cm以下 葉色4以下	出穂前15日頃に（幼穂長30mm）に 窒素1～2kg/10a施用
にじのきらめき	～出穂期	SPAD40以上	SPAD40を下回る場合、 出穂前30～25日（幼穂長1mm）に 窒素2～3kg/10a 出穂前14日（幼穂長4cm）に 窒素～2kg/10a
夢あおば	出穂前25日頃	草丈71cm以上	出穂前20日頃に 窒素3～5kg/10a施用
		草丈71cm以下	出穂前20～25日頃に 窒素5～7kg/10a施用